

平成20年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

平成20年度に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、保護者や地域の皆様に御理解と御協力をいただきながら、学習指導の工夫・改善に生かしていくため、以下の通り公表します。

なお、本市の「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」に本調査を加えた、結果の分析及び指導の工夫・改善のための具体策を平成21年4月を目途に公表します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査期日

平成20年4月22日（火）

3 調査対象

第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ① 国語A, 数学A (主として「知識」に関する問題)
- ② 国語B, 数学B (主として「活用」に関する問題)

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ① 生徒に対する調査
- ② 学校に対する調査

5 本校の参加状況

生徒数

- ① 国語A 55 人, 国語B 55 人
- ② 数学A 55 人, 数学B 55 人

6 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示し、指導の工夫・改善に生かすために分類・区別の平均正答率を公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区別の傾向と課題」、「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。

※用語の説明

○平均正答率…平均正答数を百分率で表示。

- ・学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答生徒数を全体の生徒数で割った値の百分率。(概数)
- ・平均正答数は、生徒の正答数の平均。

Ⅱ 調査結果の概要

【国語】

《全体的な傾向》

実生活に活用する力・課題解決する力においては学習指導要領の「言語事項」、評価の観点の「国語への関心・意欲・態度」「言語についての知識・理解・技能」が全国平均や栃木県平均を3%以上も上回っている。これは活用する力が確実に育ってきているためと考えられ、毎日朝の読書活動や授業等で培った力が実を結んだものと考えられ、引き続き読書や言語活動を進めていくと良いと考えられる。

《分類・区分別集計結果》

(1) 国語A(設問数37問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	8	89.7	91.3	90.1
	書くこと	4	77.5	77.4	73.4
	読むこと	7	77.9	81.9	80.6
	言語事項	18	80.1	82.3	80.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	83.3	84.2	83.5
	話す・聞く能力	8	89.7	91.3	90.1
	書く能力	4	77.5	77.4	73.4
	読む能力	7	77.9	81.9	80.6
	言語についての知識・理解・技能	18	80.1	82.3	80.3
問題形式	選択式	20	83.4	85.3	84.2
	短答式	16	79.5	82.2	79.3
	記述式	1	72.5	73.0	72.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 国語B(設問数10問)

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	1	81.5	82.8	81.3
	書くこと	3	67.5	65.8	64.4
	読むこと	9	73.1	72.8	70.6
	言語事項	1	74.1	70.8	68.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	67.5	65.8	64.4
	話す・聞く能力	1	81.5	82.8	81.3
	書く能力	3	67.5	65.8	64.4
	読む能力	9	73.1	72.8	70.6
	言語についての知識・理解・技能	1	74.1	70.8	68.5
問題形式	選択式	5	82.2	80.9	79.3
	短答式	2	63.0	68.2	63.5
	記述式	3	67.5	65.8	64.4

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

《分類・区分別の傾向と課題》

●…課題があるもの

【話すこと・聞くこと】

○平均回答率が知識面で全国平均よりもやや下回っているものの活用面では若干上回っている。話すことの内容に応じ適切な資料を提示することで、多くの生徒が理解している。

【書くこと】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。意見文に対する評価として適切なものを選択できない。行事のあとに作文を書いても、自分の意見を正しく表現できない。

【読むこと】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈における描写を的確に読み取ることや、作品の内容や構成を踏まえ、自分の考えを書くことに課題がある。

【言語事項】

●平均正答率が知識面・活用面で全国平均よりも下回っている。文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだり、ごくの意味を理解し、文脈の中で適切に使うことなどに課題がある。

【その他】

○文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることや作品の展開や心情の変化に着目して朗読したりすることは相当数の生徒ができています。

●複数の資料から得た情報を整理して伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことや文章の展開や心情の変化に着目して工夫しながら朗読することに課題がある。

《国語に関する質問紙調査の状況》

【生徒質問紙】

「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出るときに役に立つと思いますか」はそれぞれ38.2%、27.3%であり、栃木県平均の51.0%、42.6%はもちろん、全国平均の49.3%、39.6%と比較して大きく下回っている。この数字は昨年度の本校と比較しても大きく下回っている。さらにそれに対して「国語の授業はよく分かりますか」「国語の勉強は好きですか」はそれぞれ1.8%、9.1%しかいない。これも栃木県平均の18.0%、19.1%や全国平均の19.0%、19.6%を大きく下回っている。

また、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか」はそれぞれ3.6%、1.8%となっている。さらに「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりとともに内容を理解しながら読んでいますか」は9.1%、9.1%となっている。最後に、「解答を文章で書く問題には、最後まで解答を書こうと努力しましたか」は47.3%でした。これは他の質問よりは高い数字であるが、全国平均や栃木県平均からは、10～15%下回っている。

《国語における指導の工夫・改善の方向性》

【話すこと・聞くこと】

聞き手を意識して使用する語句を工夫することに課題があることを踏まえ、話し合い活動時に聞き手の立場を意識させたり語彙力を豊かにさせることを意識した授業を行う。

【書くこと】

意見文を書くことについての知識・理解に課題があることを踏まえ、行事の後に自分の考えをまとめるなど意見文を書く機会を作り、その中で意見文の書き方の指導を行う。

【読むこと】

文脈における描写を的確に読み取ることや、描写の部分を確認しながら、段落や文章の中身を理解させる指導を行う。

【言語事項】

漢字の読み書きの力をつけさせるとともに語義や語源などにも着目させて、言葉の根本を理解させる指導を行う。また、家庭学習でも漢字練習を習慣化できるように意識させる。

【その他】

意見文の書き方を練習するほか、敬語や場面に沿った効果的な話し方を理解させる。

【数 学】

《全体的な傾向》

- ・ 数学Aの平均正答率は63.3%で、全国平均とほぼ同じある。正答数の分布はまばらで、14問、21問、31問をそれぞれ頂点とする三極化の分布と捉えることができる。
- ・ 数学Bの平均正答率は46.5%で、全国平均よりやや低い。

《分類・区分別集計結果》

(1) 数学A(設問数36問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	数と式	12	66.5	67.3	68.0
	図形	12	64.2	63.5	62.7
	数量関係	12	59.1	60.4	58.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	/	/	/
	数学的な見方や考え方	0	/	/	/
	数学的な表現・処理	17	62.1	63.1	62.5
	数量・図形などについての知識・理解	19	64.3	64.3	63.6
問題形式	選択式	16	61.6	62.8	61.8
	短答式	20	64.6	64.5	64.1
	記述式	0	/	/	/

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

(2) 数学B(設問数15問)

分 類	区 分	対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			本校	宇都宮市	全国
学習指導要領の 領域	数と式	3	55.8	55.9	54.2
	図形	3	51.5	57.4	57.6
	数量関係	9	41.8	43.9	44.7
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	/	/	/
	数学的な見方や考え方	13	44.8	47.0	47.0
	数学的な表現・処理	2	58.2	62.3	63.1
	数量・図形などについての知識・理解	0	/	/	/
問題形式	選択式	5	50.9	54.8	55.2
	短答式	4	65.0	62.6	62.5
	記述式	6	30.6	35.1	35.3

※1つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

《分類・区別の傾向と課題》

●…課題があるもの

【数と式】

- A 領域の平均正答率は66.5%で全国平均より2.5ポイント低い。特に正の数と負の数の意味を実生活の場面に結びつけて理解する問題や等式を目的に応じて変形する問題、文字式の意味を具体的な事象と関連付けてよみとる問題の正答率が、全国平均正答率よりも10ポイント前後低い。数式や文字式の意味理解に課題がある。
- A 整式の加法と減法の計算をする問題や連立二元一次方程式を解く問題の正答率が、全国平均正答率よりも5ポイント以上高い。
- B 領域の平均正答率は5.8%で全国平均より1.6ポイント高い。特に事柄が成り立つ理由を示された方針にもとづいて説明する問題の正答率が全国平均正答率よりも9.4ポイント低い。数式や文字式を使っての説明に課題がある。
- B 問題場面における考察の対象を明確に捉える問題の正答率が、全国平均正答率よりも11.1ポイント高い。

【図形】

- A 領域の平均正答率は64.2%で全国平均正答率より1.5ポイント高い。特にn角形の内角の和を求める公式の意味理解の問題の正答率は54.5%で全国平均正答率より9.4ポイント高い。
- B 領域の平均正答率は51.5%で全国平均正答率より6.1ポイント低い。特に方針に基づいて証明する問題や証明を振り返って考える問題の正答率が全国平均正答率より10ポイント前後低い。方針に基づいた証明に課題がある。

【数量関係】

- A 領域の平均正答率は全国平均正答率より0.5ポイント高い。特にグラフ上の点の座標の表し方の理解は、全国平均正答率より12.2ポイント高い。
- A 樹形図の意味やその用い方の理解の問題の正答率が全国平均正答率より17.9ポイント低い。樹形図の意味理解に課題がある。
- B 領域の平均正答率は全国平均正答率より2.9ポイント低い。特に事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率が全国平均正答率より8.9ポイント低い。数学的な説明に課題がある。

《数学に関する質問紙調査の状況》

【生徒質問紙】

- 「数学の勉強は大切だと思うか」に対する肯定的な意見は87.5%で全国平均より8.7ポイント高い。
- 「数学の授業の内容はよく分かるか」に対する肯定的な意見は78.0%で全国平均より14.4ポイント高い。
- 「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」に対する肯定的な意見は86.2%で全国平均より17ポイント高い。
- 「数学の勉強が好きか」に対する肯定的な意見は41.3%で全国平均より9.7ポイント低い。
- 「数学の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」に対する肯定的な意見は57.5%で全国平均より5.5ポイント低い。

《数学における指導の工夫・改善の方向性》

【数と式】

・文字式の意味を身近で具体的な事象と関連づけながら数量関係をとらえさせる機会を充実させ、数から文字への移行を確実に定着させる。

【図形】

・不十分な証明や誤った証明を修正する活動を取り入れるなどして、見通しを持って証明を構成する活動を充実させる。

【数量関係】

・1次関数で日常的な場面との関連を図り、事象とグラフとの関係や、グラフの意味を読み取る学習などを取り入れ、数学的に処理したり解釈する力をつけさせるための機会を多くとり問題解決ができるような活動をさせる。

【その他】

・計算の反復練習などを繰り返し行い基礎・基本の定着を図る。
・記述問題に対しても粘り強く取り組めるような働きかけや、粘り強く取り組めるような問題に取り組める機会を積極的に増やす。

【質問紙調査】

生徒質問紙

《主な状況》

○全国と比べポイントの高いもの ●全国と比べポイントの低いもの

- 「普段（月～金曜日）、何時ごろ起きていますか」の質問に対する6時30分より前という回答の割合は、45.4%で全国と比べて、12.9ポイント高い。
- 「携帯電話で通話やメールをしていますか」の質問に対する否定的な回答の割合は、83.6%で全国と比べて、26.5ポイント高い。
- 「家の人と普段夕食を一緒に食べていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、92.7%で全国と比べて、12.3ポイント高い。
- 「家で食事をするときは、テレビをみないようにしていますか」の質問に対する否定的な回答の割合は、92.3%で全国と比べて、9.1ポイント高い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、41.8%で全国と比べて、19ポイント低い。
- 「将来の目標を持っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、58.2%で全国と比べて12.5ポイント低い。
- 「家の人と学校での出来事について話をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、32.7%で全国と比べて25.1ポイント低い。
- 「家の手伝いをしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、34.5%で全国と比べて26.1ポイント低い。
- 「家で学校の授業の予習をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、12.7%で全国と比べて15.7ポイント低い。

〔生徒の傾向〕

ほとんどの生徒が、家族と一緒に食事をしたり、早起きをしていたり、するなど基本的な生活習慣ができています。あとは、自分の個性を見つけるためにも学習に対して前向きに取り組む生徒の割合を多くしていく必要性がある。また、ややメールを利用して会話をする率が高いので直接本人同士の会話する機会を増やしていく必要性がある。

Ⅲ 今後の予定

市が作成した『学習指導の工夫・改善のために』（指導資料）を参考に「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」の結果と「全国学力・学習状況調査」の結果を併せて、「本校における学習指導の工夫・改善」を作成する。

- ・ 公表時期 平成21年4月（予定）
- ・ 公表方法 ホームページ等